



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2013年8月号

「主題」

- 国際会長 : 全ての世界に出て行こう。
- アジア地域会長 : 未来を始めよう、いますぐに。
- 西日本区理事 : 志をもって例会に参加し、学びの機会を持ちましょう。
- 中部部長 : 長所を活かして生き生きと。
- プラザクラブ会長 : 5年後のプラザの為に今何を。
- 強調月間・活動 : 【Youth Activities】

8月例会および今後の予定案内

<p>【8月第1例会】 日時：8月8日(木)・18:45- 場所：名古屋YMCA会議室 内容： 【8月第2例会】 日時：8月22日(木)・18:45- 場所：名古屋YMCA会議室 内容：次月例会の打ち合わせ 出席義務者：役員(島崎・榎田・後藤) 9月担当者(小澤・高田) 10月担当者(榎田・万福寺)</p> <p>【今後の予定】</p> <p>1. 8月第1例会 日時：8月8日(木)・18:45- 場所：名古屋YMCA会議室 内容：年間行事計画(案)討議</p> <p>2. 8月第2例会 日時：8月22日(木)・18:45- 場所：名古屋YMCA会議室 内容：次月例会打ち合わせ</p> <p>3. 中部部会 日時：8月31日(土)・評議会 11:00-12:30 ・式典・講演会 13:00-15:00 ・懇親会 15:40-17:30 場所：金沢都ホテル</p> <p>4. 9月第1例会(南山クラブと合同例会) 日時：9月12日(木) 場所：未定 内容：ユースを励ます会</p>

7月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者								
		1	2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	大島 孝三郎	○	○							
	小澤 幸男	○								
書記	榎田 守隆	○	○	○	○					
会計	後藤 猛	○	○	○						
会長	島崎 正剛	○	○	○	○					
	鈴木 誉三	○								
直前会長	高田 廣	○	○							
連絡主事	万福寺 昭美	○	○	○						
ゲスト										
課外活動	①東北支援 夏まつり 7/15 ②日和田キャンプ場作業 7/20-21 ③会長連絡会 7/26									
出席率(%)										100.0
クラブファンド(円) ・当月/累計		0								0
9月号寄稿者・万福寺(1600-2000字程度)										
10月号・小澤/11月号・鈴木/12月号・島崎										

【2013-14年度クラブ役員】メネット連絡員・島崎正剛/副会長。プラザファンド・後藤猛/プリテン委員長。メール委員・榎田守隆
 EMC. BF. EF. JWF・高田廣/YMCA サービス。IBC. YEPP・小澤幸男/CS. TOF・鈴木誉三/広報事業・大島孝三郎/連絡主事・万福寺昭美

7月第1例会報告

日時:7月11日(木)・18:30-20:45

場所:浩養園

1. 連絡事項・島崎

- (1)メネット連絡員は島崎と平口部長に連絡する。
- (2)8月31日の中部部会参加者は6人、クルマ2台に分乗し1泊旅行とする。東海クラブ提案の貸切バスの件は、浅野さんに断りを入れる。

2. 新年度予算案・後藤

詳細案配布、承認される。

3. 西日本区大会収支概要報告・鈴木

予備費1万円/人を除き、80万円とドアプライズ12万円の黒字が見込まれる。

4. 懇親会



7月第2例会報告

日時:7月25日(木)

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 連絡事項・島崎

(1)8月第1例会内容

理事、部長、会長方針および2013-14年度のクラブ行事計画の説明。

(2)9月第1例会

南山クラブから合同例会の申し入れを承諾する。ユースを励ます会、と称する懇親会を行う。開始時間は午後6時半頃、場所は八事周辺か、費用は会費で賄う。

(3)12月第1例会(クリスマス例会)

クラブ単独で開催する。

(4)中部部会参加者

大島、榎田、後藤、島崎、鈴木、高田の6人、うち車2台の乗り合わせ5人、車提供者と乗車メンバーは後日決定する。

(5)チャリラン実行委員選出

YMCAより各クラブ1人の実行委員選出の要請があった。Yサ役員の小澤さんを推す。

2. YMCA 連絡事項・万福寺

盆休みは8月13日-15日です。

東北支援 夏祭り

南山幼稚園で7月15日「海の日」に夏祭りが開かれた。午後2時半に会場に着く。グラウンド一杯に色々な模擬店が並んでいる。ヨーヨー釣りのお世話は東海の浅野さんに長谷川さん、孫たちと遊んでいるようだ。グランパスは東北の物産店を開き、せんべいやお餅を売っている。2階のホールはコインおとしやトイレットペーパーたおしなどのゲームに子どもたちが興じている。来場者の中心は園児と一緒に家族らで、午後6時の終了までに500人ほどが楽しんだ。売上金は約46万円、東北への支援金10万円ほどになりそうです。



日和田キャンプ場作業

森宗さんから「日和田にも川がありますよ。釣りの後でキャンプ場の開設準備作業を手伝って」と頼まれて後藤、大島さんと玄関の掃除や草刈りを始めたのが2008年の夏から。この時から、初日は釣りを楽しみ、バーベキューの材料を供するのが慣例になった。



7月20日、最初に入った木曾川水系の黒川での釣果が芳しくない。念のため10尾ほど買い、昨年秋の禁漁

時「大きいイワナがうようよ泳いでいた」、との後藤証言を信じて開田高原のある川に向かう。本当だった。後藤、島崎さんは 25 センチ前後の良型(りょうけい)イワナ、アマゴを気持ちよく釣り上げている。わたしは蚊帳の外、堤防からの見学でした。

お土産はそろった。買った 10 尾を含み 45 尾、大きさ好みは兎も角、参加者 23 人ほどのお腹を満たす数はある。塩焼きと唐揚げとも、いい味に仕上がった。3 人の「溪流釣り顛末記」は、3 頁目に載せた後藤さんの寄稿文をお読みください。



夜は寒かった。この辺りの標高は 1200m、100m 上がると気温は 1℃下がる。この頃の名古屋の最低気温は 25℃だったから、13℃前後ということか。

翌日、5 時に目が覚めた。外に出るとひんやりとして気持ちがいい。浴場と男子用トイレ、玄関周りを掃除して 8 時の朝食を待つ。朝食を終えるときょうの作業の役割が告げられた。



わがプラザの 3 人は、テントに撥水剤を塗る、YMCA の旗を掲揚する、と 2 人の後期高齢者にふさわしい楽な仕事である。テントは 6 人用 3 基と 3 人用 1 基、刷毛で底に撥水剤を塗るだけの簡単な仕事だが、臭いが強烈で耐え難い。



次はポールを立てて支柱に固定し、旗を掲げる作業

は難無くできた。



旗を揚げたと同時に、われわれの役割は終わった。急ごう、大釣りしたきのうのポイントへ。昼食もとらずに直行したが、二匹目のイワナ、いやドジョウはいなかった。



溪流釣り顛末記

例年、今頃になると名古屋 YMCA 日和田ロッジ開設のため、ロッジ周辺の草刈、屋内の大掃除の手伝いに一泊二日で在名クラブが参加しています。毎年、現地集合はお昼ごろですが、プラザの溪流釣り師たちは、イワナ、アマゴを調達して夕食に間に合うように参加しています。今年、我々プラザクラブからは島崎、榎田さんと私の三人が参加することになりました。

7 月 20 日朝 5 時半に島崎さんを乗せ、榎田さんの所に 6 時に着き、それぞれ溪流釣りの用具を乗せて高速道名古屋インターから中津川インターで降り、19 号線の木曾福島を過ぎ、福島トンネルを抜けてすぐ左に折れ、木曾川に合流する支流黒川沿いに 15 分ほど走ると目的地の漁券売り場に着く。入漁券 1,000 円プラス消費税 50 円を支払い入川することにしました。

魚券売り場の草むらに車を駐車し、その前を流れている川の下流に私、中流に榎田さん、上流に島崎さんと分かれ 9 時半ごろから釣りはじめました。

6.5m 自重 130g の溪流竿、仕掛けは道糸 0.6 号ハリス 0.4 号、錘(おもり)2 号、目印は毛糸の橙色 4 個をつけ、手尻から 30cm 程度出した仕掛けで、エサは塩漬のイクラ、川に入投すると直ぐエサがとれてしまう醤油漬はだめ、私は塩漬イクラを愛用しています。

この黒川は護岸をブロックで固め、川幅 30m-40m ほどでブロックの上から川面まで 2m 程度あり、丁度渡り

歩きが出来、その上から釣竿を出せば容易に釣ることが出来ます。ただ、対岸の山から木の枝が張り出しているので、仕掛けを引っ掛けないよう、また流れの中の沈み岩に鈎(はり)掛かりしない様に流さなければなりません。

本来、溪流釣りは腰までのウェーダーを履き、溪流の中に立ち込んで釣るのが一般的ですが、年取った私は川の中を渡り歩きするのがずい分苦労しますので、手抜きで護岸の上から楽に釣れる普通のズック靴のまま、竿を出しました。それでも岩の下から20cmほどのイワナが1匹出てきました。さらに下に移動し、流れの終わろうとしている処からもう1匹釣れてきました。その後当たりが出なくなり、場所を移動する事にして道路に上がり、下の橋を渡り川の左岸に入り、やはり護岸の上から竿をいっぱい振り込み、流れに乗せて仕掛けを流すと12.3cmのアマゴのチビが、立て続けに2匹ほど出てきた。その下流の石周りから20cm程のイワナ1匹が掛ってきました。

その後、当たりが遠ざかりましたので、車の駐車しているところへ戻ると榎田さんが先に帰っていました。釣果を聞くと20と23cmのイワナ2匹とのこと。車で島崎さんを探しに移動し彼を見つける。川から上がってくる足取りは軽快で、いやにご機嫌な顔している。魚籠を開いてみるとイワナの27cmをはじめ18cm位のアマゴの20cm程を含めて9匹、3人で15、6匹ほどの釣果では獲物としては不十分な数です。お腹が空いたので、例年パレットキッズの子どもたちとイワナ釣りをし、木曾川漁協委託の管理釣り場[みやま苑]で昼食をとり、再度釣りにすることにしました。ただし、釣れるか釣れないかは時の運、念のため漁協が管理するイワナを1kg買い、とりあえず獲物として確保しておきました。あとは、安心して釣りに専念しました。榎田さんと私は黒川のさらに支流の小川に入り、榎田さんが27.8cmのイワナを上げ、わたしはチビのアマゴを2匹、島崎さんは先の場所でさらに釣果伸ばし、5匹ほど追加してきました。

黒川を後にして地蔵トンネルを抜け、開田高原の秘密の釣り場に直行、そこは大堰堤でその下には深さ2m幅30m奥行き8mのプール状になっている絶好のポイントで、3人並んでも充分竿が振れる場所です。3人がそれぞれイワナの25~29cmを釣り上げ、この場所で3人が15匹ほど、午前中の釣果と合わせて35匹と魚協で仕入れた10匹の都合45匹程度をバーベキューの食材として、ロッジに持ち込む事が出来ました。

(注)・魚は生きていた状態では「匹」と数えますが、水揚げされた、釣られた魚は生き物としてではなく商品や獲物として「尾(び)」と数えます。拙文には水中の魚、釣り上げた魚などの記述が混在していますので、敢えて数え方は「匹」に統一しました。

(後藤 猛)

聖書の言葉

【人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、皮袋は裂けて、ぶどう酒が流れ出てしまい、皮袋もだめになってしまいます。新しいぶどう酒を新しい皮袋に入れれば、両方とも保ちます。(マタイの福音書9.17)】

【新しいぶどう酒は発酵力が強いので、古い皮袋に入れると、袋に弾力性がないので破れてしまう。同じように、新しい考え方があっても、相変わらずの価値観や生活スタイルに執着していると、いつまで経っても新しい展開はない。物事を新しくするときには弾力性が必要である。(「実用 聖書名言集」賀来周一著)】

【7月22日付日経新聞の朝刊1面は「与党圧勝 ねじれ解消 参院選自民60台半ば」の見出しが躍る。これでやりたい放題、歯止めが利かなくなった。顕著な例は派閥復活である。参院選前に自民党の圧勝を見越し、「大島・麻生派合流へ 参院選後自民第三勢力に」(4月20日付産経新聞)、「選挙後にらむ自民派閥、新人困い込みに躍起」(7月18日付読売新聞)の有様。7月24日付の日経新聞は「数の理論じわり復活 各派閥、新人議員を争奪 参院人事が試金石」安倍首相も所属する町村派の「新人の入会状況は?」と心配したとか。古い自民党に戻ったことに間違いはない。2009年野党に転落したとき、派閥は解消する、と言っていたが・・・。喉元過ぎれば、また古い皮袋を持ち出すとは。】

近田さん、さようなら

近田さんの訃報は、後藤さんから突然届いた。「あす午後6時お通夜、場所は昭和区の名古屋ハリストス正教会、告別式は28日の9時」と短い電話である。

後藤、島崎、近田さんと庄川へ釣行した様子が2002年7月号のブリテンに載っている。『・・・昼食後、車で移動。近田さんに庄川源流部へ案内される。「毎週来る」ほど、お気に入りの場所らしいが、低い姿勢の沢渡と頭上を覆う木々の枝を気にしながらの振り込みは、この歳になると少々辛い。3時に納竿。釣果は? われら3人の弟子どもは小アマゴ、イワナ多数も、後藤先生は大物3尾を披露、さすが。獲物は夕方の宴会に塩焼きで供され、・・・』数年後、この場所は両岸コンクリートの堤防が築かれ、昔の面影は微塵もない。

後藤さんが「まだ近田さんからお声が掛からない、病気だろうか? 近田さんを誘い、鈴蘭高原の保養所に泊まって、久々野辺りで釣りたいね」と話していたのに。不漁でも「僕は釣りをするだけで楽しい」といつも優しい近田さんの笑顔が忘れられない。

7月27日、ハリストス教会へ後藤さん、島崎さんと最後のお別れに行ってまいりました。安らかな眠りをお祈りいたします。